

## 第6回政策検討部会における主な意見

令和2年10月21日

大阪府住宅まちづくり審議会第7回政策検討部会 資料

# 1. 第6回政策検討部会における主な意見

## ニーズ把握

- 子供や若年者が抱えている問題がかなり深刻になってきていることや、コロナ禍で在留外国人が追い詰められている状況であることも盛り込んでいく必要がある。
- 色々な家族構成や世代に対して、もう少し多面的な検討がいる。コロナ禍で、特に都市の共同住宅に住む子育て世代については、子供が家の中でテレワークが始まる、近隣関係でのトラブル、子供の遊び場も大変など、非常に不安定な状況だということが顕在化したのではないか。
- サンプルサイズが小さい調査ではあるが、コロナ禍で子供のいる既婚女性がかかなりの住宅ストレスを抱えているという調査結果があり、これからの大阪を背負っていく年代である子育て世代や子供たちにも目を向けるべきだと思う。

# 1. 第6回政策検討部会における主な意見

## 都市の魅力を育む

- 都市に関する取組項目の中に、あまり住宅政策的なことが掲げられていない。都心居住のあり方、郊外における暮らしのあり方という多様性を都市の魅力としてつくっていく、また住まいとしても、居住地としての都市の魅力を上げていくということが必要。
- 都市の魅力を上げることによって居住地としての魅力も上がる、その時に必要な施設やサービス、コミュニティを形成していく、というようなあり方が記載できれば良いと思う。
- ユニバーサルデザインについては、ハード面に特化して書かれているが、今はソフトのインフラをどうつくるかということが重視されているので、そういった内容も入ってこないとおかしい。

# 1. 第6回政策検討部会における主な意見

## 都市の魅力を育む・くらしの質を高める

### 【冗長性・多様性のある居住地へのニーズ】

- 住まい・まちづくり政策のあり方として考えた場合、これまでの居住立地政策の考え方のままでいいのかという議論は再検討が必要ではないか。
- これまでの都心居住で通勤時間を最小にするという住まい方は、今後変わっていくと考えられ、テレワーク中心の人と都心に住んで働く人で再配分のようなことが起こる可能性があると思うので、その両方を上手く入れたような文章にしてほしい。
- テレワークと住まいとの関係については、居住地選択や仕事の仕方など暮らし方そのものの本質という課題が提示されているように思う。
- テレワークを住宅の中だけの問題として捉えることの限界性が課題になっているので、イメージ案のような住宅を普及するだけでは問題解決にならない。
- これまででは効率性重視の都市政策であったが、コロナ禍等により冗長性・多様性（ダイバーシティ）のある住宅行政の必要性が顕著になってきており、住まい・まちづくりの視点からみると、色々な選択性が用意されている社会でなければ危機事象に対応できないと思うので、そういった価値観の動きというものがもう少しみえた方が良い。

# 1. 第6回政策検討部会における主な意見

## くらしの質を高める

### 【「くらしの質を高める」の施策構成】

- 「新たな日常に対応した質の高い住まいの普及」について、質の高いという言葉がわかりにくい。
- 施策の柱の2つ目のくらしの質については、すべてに関係することだと思うので、もう少し全体の構成のあり方を考える必要がある。
- 「新しい生活様式、新たな日常」の部分をもう少し分解して、コロナ禍で長期的に影響を及ぼすものをもう少しきっちりと描いてもいいのではないか。

### 【地域コミュニティを通じた健康なくらし】

- 30代までの女性の自殺率が昨年度より増加しているとの報道もあり、コロナ禍で元気そうに見える世代のメンタルヘルスが危機的状況にあると思われるため、幅広い世代での地域コミュニティや家での過ごし方等についても、もう少し書き込んだほうが良い。
- 地域コミュニティをつくることで人との接触機会を増やすというようなメンタルヘルスの視点での健康づくりも検討してほしい。
- 施策の大きな目標として、心と体がともに健康である暮らし、住まい、コミュニティのあり方を打ち出すのも良いのではないか。

# 1. 第6回政策検討部会における主な意見

## 【住まい・まちづくりにおける健康の視点】

- 健康住宅という概念は、これまでシックハウス対策や省エネという観点等からの議論はあったが、明確に定義されていない。ここで健康をベースにした住宅の論点を再整理し、施策としてどうすべきか議論が必要。
- テレワークに対応した居住というのは、仕事がしやすいということだけでなくメンタルヘルスに与える影響についても指摘しておいた方が良い。
- 「医療連携のまちづくりの促進」については、医療関係部局等と連携をしながら、既存の施策と上手く組み合わせて取組んでいけば良いのではないか。
- 「徒歩や自転車を活用したまちづくりの推進」は、健康づくり・まちづくりに合致するものだと思う。
- 健康の視点を含めて、運動あるいは徒歩・自転車を利用したまちづくりの取組みを入れた方が、コロナに対応しつつ暮らしを支えるということにも繋がるのではないか。

## 【分譲マンション施策】

- 「分譲マンションの管理適正化」については、合意形成や感染症を踏まえた新しい避難のあり方等の新しい課題に対して、マンション内避難が重要になってくるため、マンションの管理や避難拠点の管理をどうするのかという視点が必要。

# 1. 第6回政策検討部会における主な意見

## 安心の暮らしをつくる

- 「公的賃貸住宅ストックの有効活用」について、新しい取組みが既にできてきているところもあると思うので、そうした視点を盛り込んでいくべき。

## 重点施策

- 施策の柱の1つ目と2つ目については、新しい課題をどう踏まえているのかを打ち出していく必要がある。
- 全体として総花的な書きぶりになっているので、もう少し新しい視点に重点をおいた書きぶりにした方がよい。